

地域での消費を復興につなげたい

図1 東日本大震災後から現在までの東北旅行経験（業務、帰省を含む）

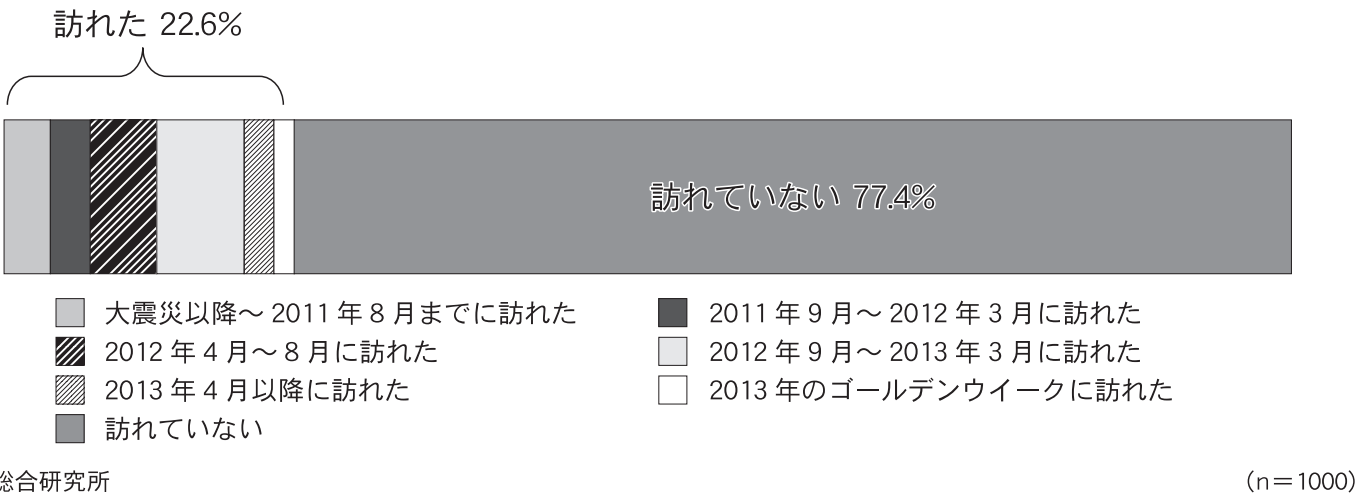


図2 東北旅行で訪れた地域

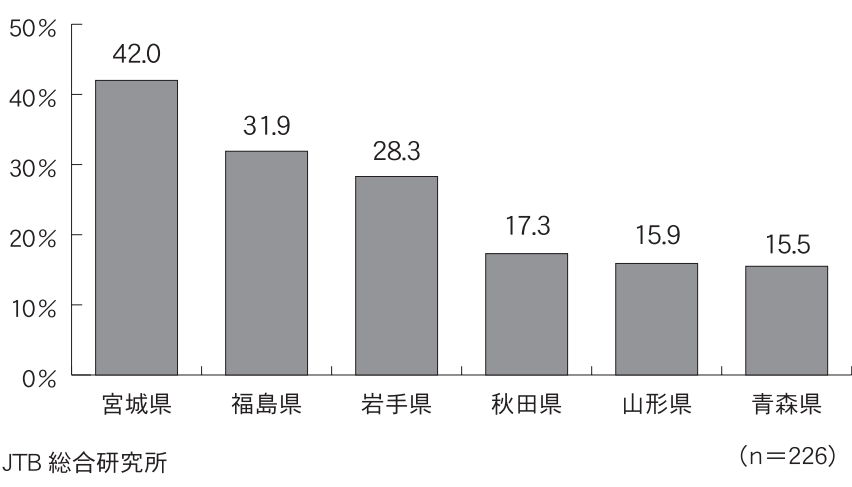


図3 東北旅行の主な目的

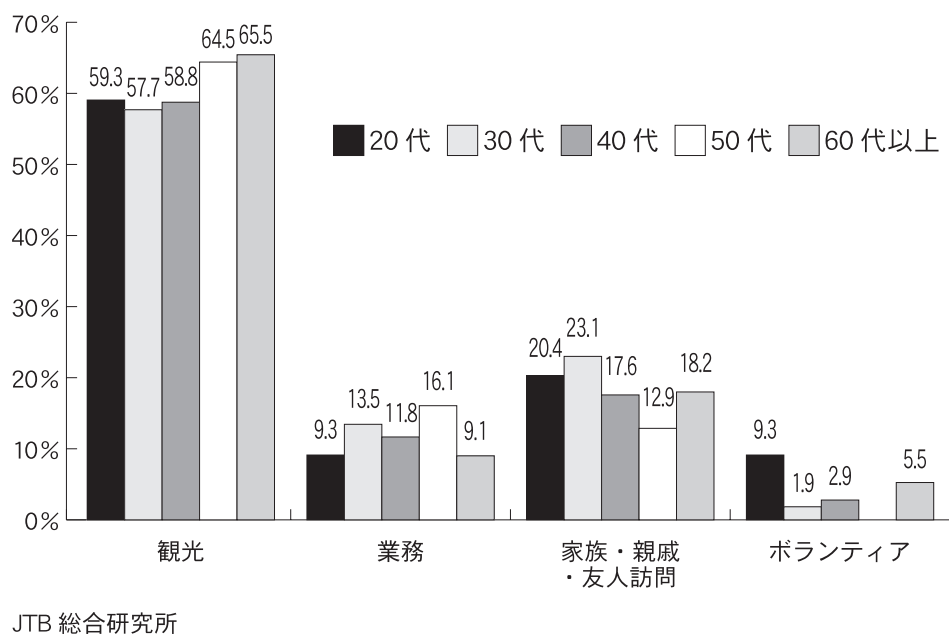


表1 訪問地

順位	訪問地	順位	訪問地
1	仙台	11	角館
2	松島	12	蔵王
3	会津	13	白河
4	平泉	14	津軽
5	盛岡	15	田沢湖
6	福島	16	山形
7	南三陸	17	十和田湖
8	いわき	18	天童
9	花巻	19	秋田
10	郡山	20	一関
		20	陸中海岸

図4 東北旅行と東日本大震災とのかかわり

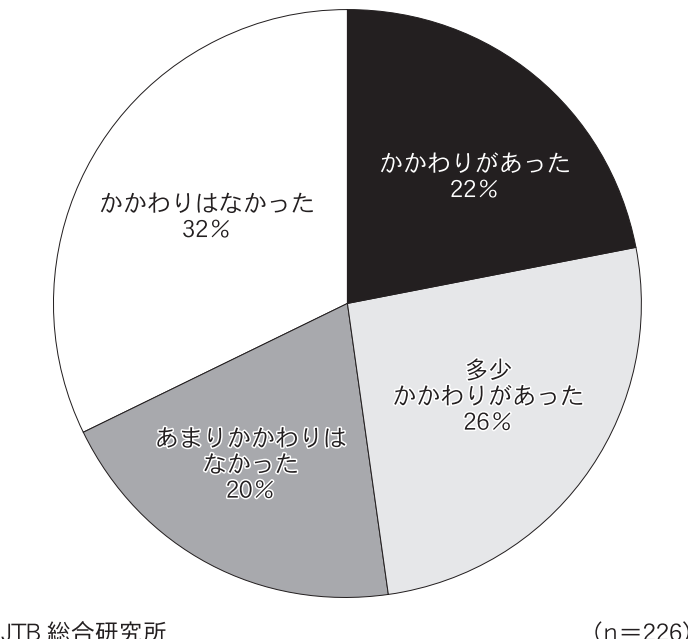


図5 東日本大震災とのかかわりの内容

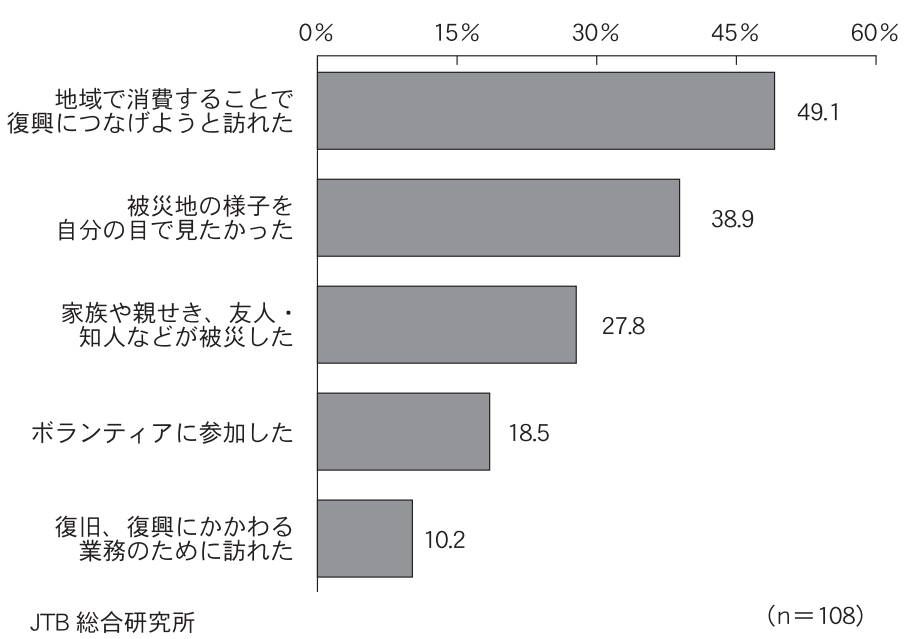


図6 東北への旅行意向

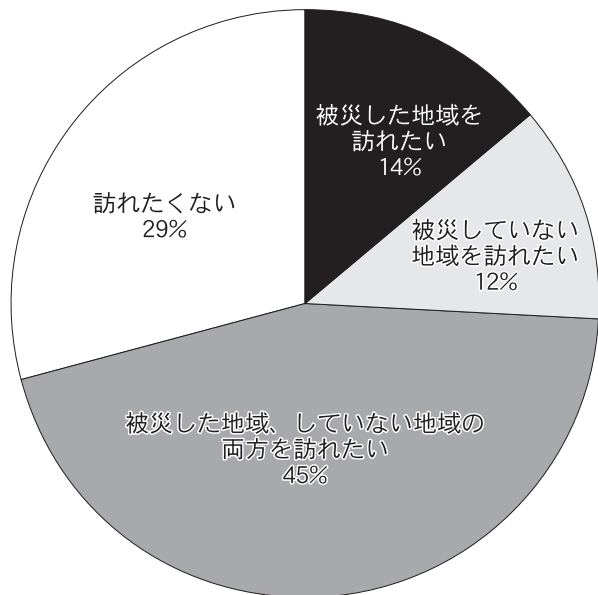


図7 震災直後に訪れたくない、訪れることができないと思った地域

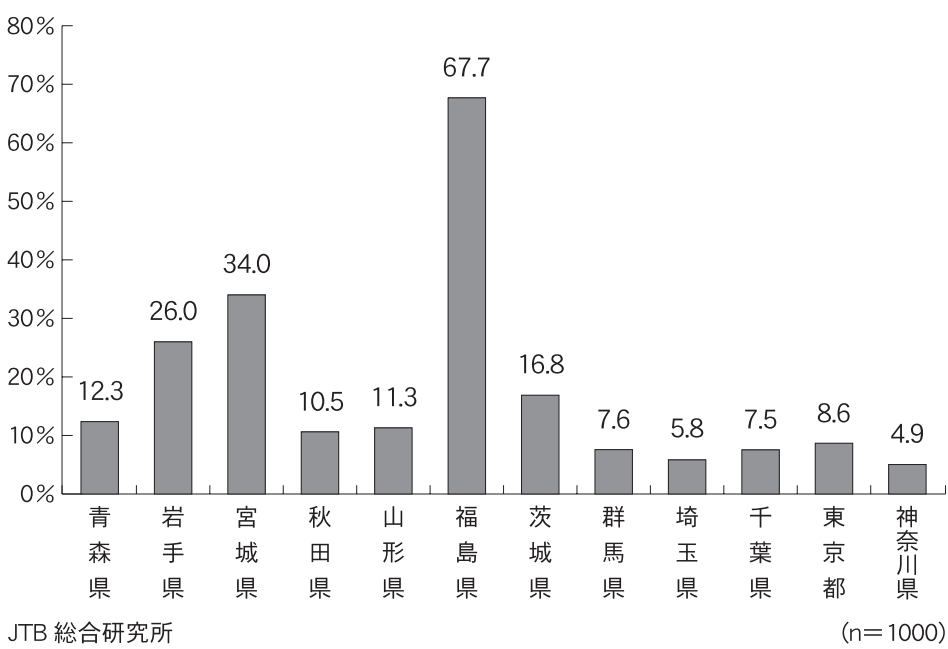


図8 震災直後に避けたが、現在では訪れたいところ

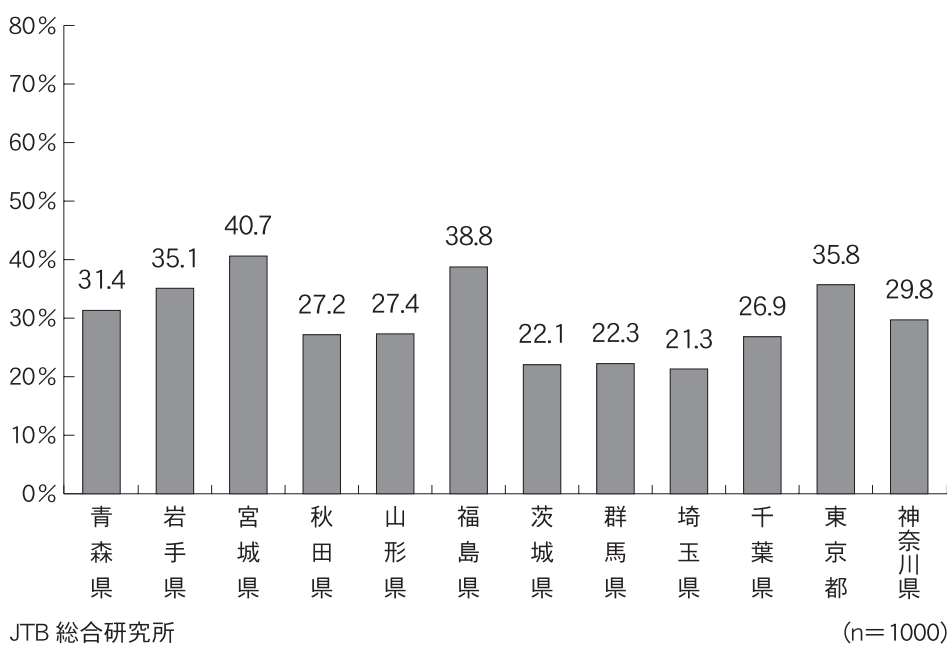


図9 東北地域を訪れたい理由

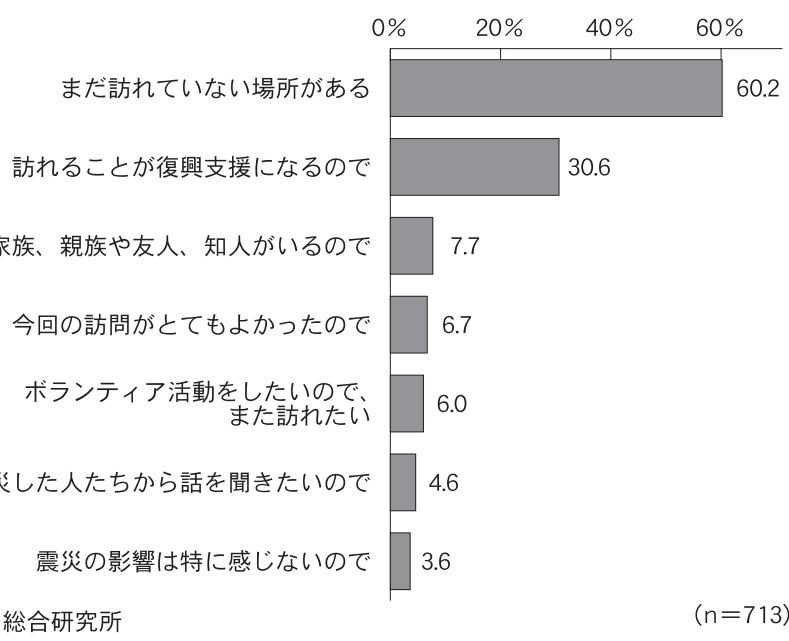


図10 東北地域を訪れたくない理由

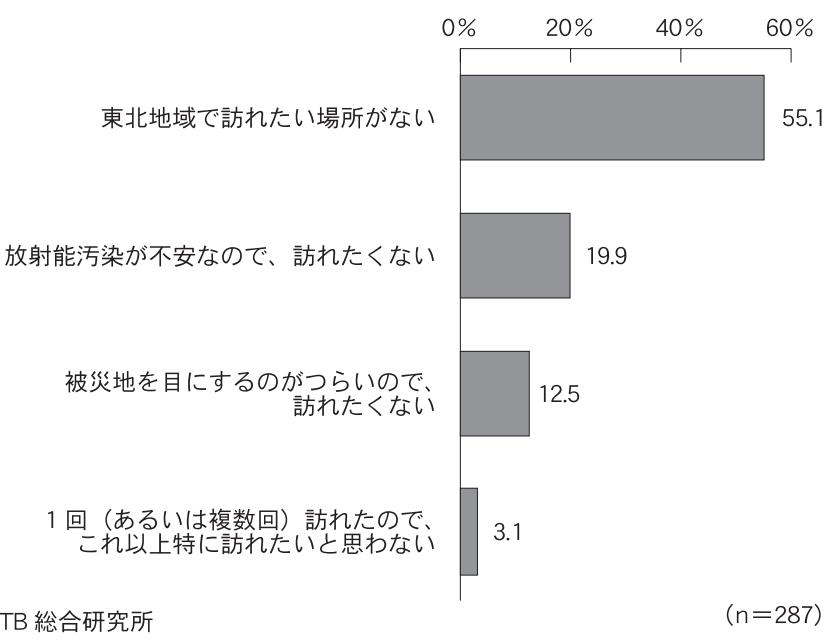
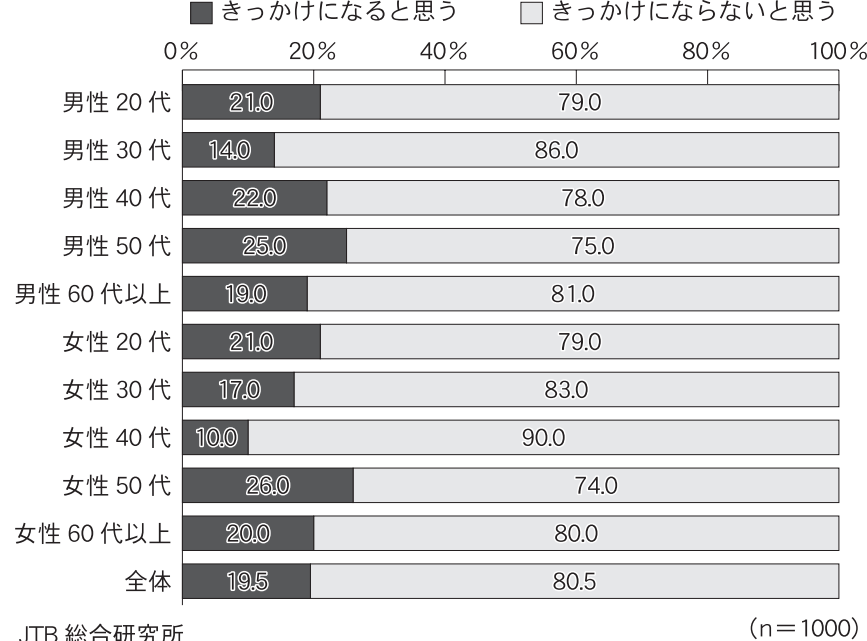


図11 東北を舞台にしたテレビ番組が東北旅行のきっかけとなるか



JTB総合研究所調査で

東北旅行のきっかけに

東北方面へ旅行する人は、東日本大震災後しばらくは大きく減少したが、最近では増えてきている。JTB総合研究所（日比野健社長）が東北への旅行の実態や意識について調査し、6月28日に発表した。ここに紹介する。

震災後から現在までの2年間に東北地域を訪れた人は、全体の22.6%だった（図1）。訪問者が多かった県は宮城県で42.0%（図2）。2位の福島県は31.9%となっている。

それぞれの県の中で訪れた地域を選んでもらったところ、主な訪問地としては、仙台、松島、会津、平泉などが挙がった（表1）。

東北旅行の主な目的は、どの年代でも6割前後が「観光」だった。年代ごとの特徴をみると、50代では比較的「業務」の割合が多く、16.1%。20代ではボランティアの割合が9.3%と、他の年代より高い傾向が見られた（図3）。

訪問県1位は宮城

7割「今後、東北を訪れたい」

割合は比較的小さく、今のところ家族旅行の目的地として選ばれていることは多くないようだ。震災後2年間で東北を訪れた人のうち、約半数の48%が「東日本大震災」と何らかのかかわりがある」と回答した人の理由をみると、「訪れたい場所がある」（55.1%）のほか、50代女性が26.0%か「放射能汚染が不安」（19.9%）、「被災地を見たことがない」（12.5%）など、訪れたい理由がいろいろある。今後の東北旅行のきっかけとなるだろうが、きつかけとなると思う」と回答した人は、全体では19.5%となった（図11）。

「まだ訪れていない場所がある」（60.2%）という考え方も震災後に新しく浸透した考え方の一つと言える。今後の東北旅行については、訪れたい意向を持っている人が71%だった（図6）。

最近では「八重の桜」や「あまちゃん」など、東北を舞台にしたテレビ番組が話題となっており、このようなテレビ番組がきっかけとなるという考え方も浸透している。今後の東北旅行のきっかけとなるだろうが、きつかけとなると思う」と回答した人は、全体では19.5%となった（図11）。

「まだ訪れていない場所がある」（60.2%）という考え方も震災後に新しく浸透した考え方の一つと言える。今後の東北旅行については、訪れたい意向を持っている人が71%だった（図6）。